

V 今年度の研究のまとめ

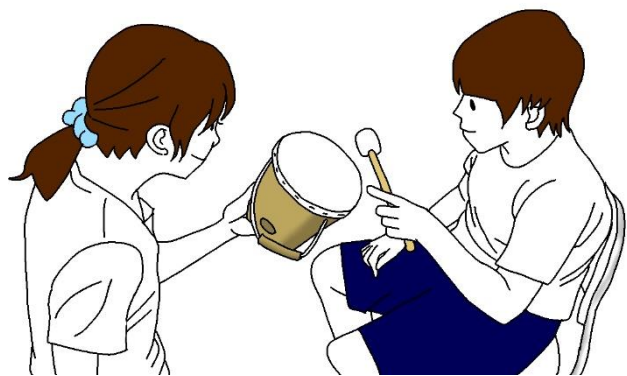
今年度の研究では、子供一人一人の指導課題を踏まえた各教科等の授業づくりとして、自立活動と各学級の授業づくりについての実践をまとめた。

自立活動の授業づくりでは、幼児児童一人一人の指導課題を導き出すために、平成 30 年度の研究成果より、学級担任全員で自立活動の「流れ図」を活用しながら、幼児児童の学習上又は生活上の困難さ、その理由や原因を探り、整理しながら指導課題を明らかにした。学級担任全員で、子供の困難さや困難さの理由を考えたり、話し合ったりすることで、子供の課題や実態の共通理解をして、指導課題を導き出し、共通の指導内容や方法で実践を積み重ねることができた。一方で、「流れ図」の項目内容に関することでは、「流れ図」の項目内容の言葉や考える視点の共通理解ができておらず、作成を進めていく上で教師が難しさを感じていたことが確認できた。「流れ図」で使っている言葉の意味を一つ一つ確認したり、手本となるような考え方、実践例を提示したりしながら、子供に関わる複数の教職員の視点で、子供の困難さや困難さの理由や原因を明らかにし、子供の指導課題を導くことができるようにしていきたい。また、自立活動の授業づくりでは、8 学級の指導事例を整理、分析し、子供の困難さにあった共通する特徴、また、共通する指導のポイントが明らかになった。

各学級の授業づくりでは、各学級で研究テーマを設定して取り組んだ。ここで報告している 3 学級の授業実践では、自分から友達に働き掛けたり、友達からの働き掛けに気付いたりしながら友達と一緒に活動をしたり、学び合ったりする力を育むことをテーマとして授業づくりが行われた。効果的だと考えられる指導のポイントとしては、幼児児童の主体性が生まれるように工夫したり、主体性を尊重したりすること、幼児児童が教師や友達に気付き、意識することができるように、教師の関わり方を工夫すること、が挙げられた。また、今年度、感染症対策の一つとして、オンラインでの授業研究会を行った。授業研究会の反省から、オンラインでの授業研究会を実施するためのポイントと課題についても明らかになった。

次年度も、知的障害を伴う自閉症の幼児児童一人一人の指導課題を明らかにした自立活動の授業づくりを軸とした研究を進めていきたいと考えている。日々の授業づくりの中で、子供の変容を基に、子供ができるようになったこと、できなかったことの原因や理由を様々な方法で探り、整理してまとめながら、子供が育つ根拠を明確にした授業づくりが提案できるように、学校の教師全員で研究を進めていきたい。

【別紙資料】



別紙①

表1 自立活動の指導事例から一部を抜き出した幼児児童の困難さ、困難さの背景と実態、効果的だった指導

学級	幼児児童の学習上、生活上での困難さ	困難さの背景とその実態	効果的だったこと
幼稚園 ひよこ組 A児	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達からの関わりに気付かず、一人で遊びを楽しむこと ・自分の思い通りに行かないこと、嫌なこと→泣いたり、相手をつねったりしてうまく伝えられないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びに集中しているため、教師や友達から関わりに気付いていない ・相手に気持ちや要求を伝える経験が少ない。 ・相手に気持ちや要求を伝える表現が少ない。 ・望ましくない関わり方で、周りの大人に自分の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が本児の好きな遊びや遊具を使用した活動内容を設定すること ・本児の正面で関わったり、本児と目を合わせながら言葉を掛けたりすること
幼稚園 りす組 B児	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたくないことを要求される、嫌なことをされる →泣いたり、物を投げたりして表現すること ・手伝ってほしいときに、教師にお願いができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを表現する手段が少ない ・自分の思いを表現する言葉が少ない ・人と関わり、気持ちを共有したり、やり取りしたりする経験が少ない ・教師からの働き掛けを受け入れることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の好きな関わり方で遊ぶこと ・子供の好きな物を介して遊ぶこと ・教師と一緒に遊んで「楽しい」という経験を積み重ねること
幼稚園 うさぎ組 C児	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての環境、初めての活動、苦手なこと、何かを指示されること →拒む、物を投げる、たたく、その場から離れる、別の活動をし続けること 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子や動きを表す言葉など、正しく理解している言葉が少ない ・伝えたいことを適切に言葉で伝えることが難しい ・初めて関わる人や行うこと、活動の切り替えなど、変化への対応が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供にとって分かりやすい言葉や表現で指示をしたり、活動内容を伝えたりすること ・教師との信頼関係を高め、教師と一緒にやりたいやり取り遊びを増やすこと ・始まりと終わりを明確にしたこと
小学部 1年生 D児	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠リズムが安定しないこと ・常に動いていて、じつくりと活動に向かったり、休んだりすることができないこと ・壁や床を強くたたいたため、けがが多いこと ・大人の手を引く、体によじ登る以外に、自分の要求を伝える方法が少ないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを作ることが難しい ・周辺視遊びやあご打ちなどの自己刺激行動を続けている ・感覚の鈍麻 ・人とやり取りする経験が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が正面から、視線を合わせて関わったこと ・感覚に働き掛ける活動を存分に行ったこと ・教師に体を預けるなど、リラックスした状態を知る活動を行ったこと
小学部 3年生 E児	<ul style="list-style-type: none"> ・不安なこと、自信がないこと →泣いたり怒ったりして、活動に取り組むことができない。 ・自分の思いや気持ちを相手に伝える言葉で表現すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れる、これから先に起こることに対して、心配になりすぎる ・自分が抱く感情を受け止めながら、物事に冷静に取り組むことが難しい ・相手への伝え方が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや文字、動画などを活用して、教師とのやり取りをしながら、物事を理解すること ・子供の気持ちを受け止めて、教師とやり取りしながら、気持ちの整理をする時間を作ること
小学部 4年生 F児	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に答えることが難しいこと ・自分の気持ちを言葉で表現できないこと →大きな声を出す、頭を壁にぶつける ・遊びを終えること 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できる動作や感情、状況などを表す言葉が少ない ・要求や拒否の気持ちを言葉で伝えることが難しい ・ルールや決まりなどの理解が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字やイラストを用いて、子供の気持ちや今の状況を教師と一緒に整理すること ・教師とやり取りしながら、子供自身が選択すること
小学部 5年生 G児	<ul style="list-style-type: none"> ・一定時間注意を向けて課題に取り組むこと ・道具などを操作して使うこと ・片足立ちの維持や中間姿勢をとること 	<ul style="list-style-type: none"> ・体性感覚のうち、皮膚、筋肉、関節の感覚に対する気付きや見る力が弱い、周りの刺激に注意がそれやすい ・握る力が弱く、道具の意味の理解が難しい ・適切な体の動かし方や力の入れ方が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と体を介したやり取りを通して、自分の体に入ってくる感覚への気付きを高めること ・感覚に訴え掛ける教材を用いたこと
小学部 6年生 H児	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や相手の様子に合わせて、自分の言動を調整すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の決まったやり方や人との関わり方がある ・言動の調整が難しい ・気持ちが高揚すると、教師からの言葉掛けを理解することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理して繰り返し伝えたこと ・やり取りの成功体験を重ねること

今年度の研究日等の日程及び内容

実施日	研究日・校内研修会の内容
6/12	第1回「今年度の研究と研究の進め方について」 ・今年度の研究テーマ、研究の目的、方法について共通理解をする。
6/22	校内研修「自立活動について」 ・各学部で自立活動の指導について共通理解をする。
6/26	第2回「指導課題を導き出そう～流れ図を活用した作成演習～」 ・各学級で代表事例児を1名決めて、子供の困難さ、困難さの理由や原因、困難さの背景などの意見を出し合い、指導課題を導き出す。
7/15	第3回「学級の研究テーマ発表」 ・各学級で今年度取り組む研究のテーマ、テーマ設定の理由、指導場面について共通理解をする。
9/23	第4回「授業研究会の進め方について」 ・授業研究会の日程、授業研究会グループ、授業研究会の進め方について共通理解をする。
9/30	第5回「流れ図作成のアンケート結果、自立活動の経過の書き方について」 ・第2回の「流れ図」の演習におけるアンケートの集計結果、自立活動の実践についての経過とまとめ方の様式について、共通理解する。
11/11	第6回「各グループで授業研究会①」 ・幼稚部りす組、小学部3年生、小学部5年生の授業研究会を実施する。
11/12	第7回「今年度の研究のまとめ方について」 ・現在のコロナの感染状況から、自閉症実践研究協議会の中止、研究のまとめ方、発表方法について共通理解する
11/25	第8回「各グループで授業研究会②」 ・幼稚部うさぎ組、小学部6年生の授業研究会、小学部低学年の事例検討会を実施する。
12/9	第9回「各グループで授業研究会③」 ・幼稚部ひよこ組、小学部1年生、小学部4年生の授業研究会を実施する。
1/20	第10回「今年度の研究のアンケート実施について」 ・研究のアンケートを実施すること、次年度研究していきたいことについてアンケートの提出を依頼する。
3/9	第11回「今年度の研究アンケートの集計結果、次年度の研究の方向性」 ・研究アンケートの集計結果から次年度の研究の方向性を共通理解する。
3/24	第12回「今年度の研究のまとめ」 ・集録を読みながら、自分の考えたことや感じたことを言葉にして伝えたり、学校の研究として取り組んだことを共通理解したりする。